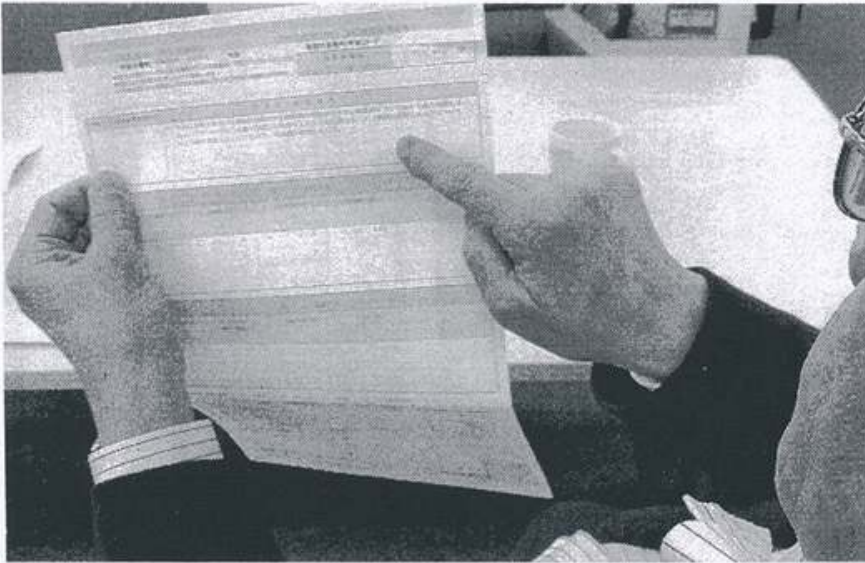


特報部

FAX 03 (3595) 6911 Eメール tokuho@chunichi.co.jp

不親切な説明文、窓口5時間待ち…

年金行政 体質そのまま

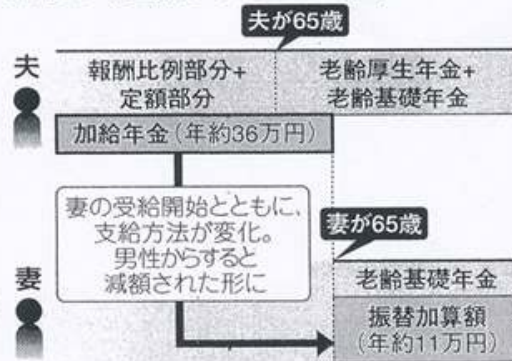


男性に今月、日本年金機構から届いた通知書。月に3万円以上も年金額が下がるのに、くわしい説明はなかった。東京都千代田区で

「ミスター年金」こと長妻昭氏を厚生労働相に据え、問題山積の社会保険庁は組織を一新し、再スタートしたはずの年金行政。ところが、まともな説明もないまま突然、大きく年金額を減らすとの通知を受けた男性から、怒りの声が「こちら特報部」に届いた。その背景にあるものは… (山川剛史)

減額通知に怒りの声

男性の年金額が下がった理由は…



今月上旬、一月に発足は痛い。何より男性が怒った年金運営団体「日本年金機構」から届いた封書を開けた千葉県男性は、その通知文に構もできず、年金問題はくせんとした。男性はこれまで年間約三百万円の年金をもらっていた。それを年三十六万円も減らしたとの内容だった。企業年金もあるとはいえ、月額三万円も減ることになり、年金生活者として

「加給年金額または加算額の対象者のうち、配偶者については六十五歳に到達したことにより、年金額を変更しました」だが、この文章を読んだら、理解、納得する人が何人もいない。男性と妻の年金について直近の状況をまとめたのが図。男性の年金が減額された部分は、妻が年金を受け取るまでの補助

感を得た。確かに、通知には減額の理由らしきことは書いてある。「加給年金額または加算額の対象者のうち、配偶者については六十五歳に到達したことにより、任意加入で未加入の人が多いため、振替加算額と

高まった可能性もある。だが、男性の場合、妻が年金請求手続きをした際に窓口で五時間も待たされ、一回では手続きが終わらなかつたこともあり、不信が募る結果に。日本年金機構は「かつては法律を写したかのような文面。分かりやすい表現に改めてきたが、不十分な点は残っている。待ち時間の問題も含め、しっかり認識させていた」とコメントした。

「加給年金と言われている知らない人が多いだろう。相手の立場にあって改善する部分はまだまだある。何より現行の年金制度はあまりにも複雑。だから、簡潔に説明できず、時間もかかるから窓口に行ける。その悪循環を断ち切るシンプルな年金づくりが急務だ」

問題は複雑な現行制度